



史蹟史料部

2023年8月3日

#36

日本人墓地公園 ニュースレター

西村吉夫の墓と拓南の碑

今回は、[ニュースレター#8](#)でご紹介した二木多賀治郎の墓の向かいにある、西村吉夫（にしむらよしお）のお墓と碑をご紹介します。

石柱で囲われた砂利敷きのスペースにお墓と碑、その手前に銘板がある立派な一画で、初めて日本人墓地公園を訪れる方の目にも留まるのではないのでしょうか。

お墓の正面には「大寛院真光義徹居士」、右に「京都府何鹿群山家村 故西村吉夫之墓」、左に「昭和九年十二月五日死ス 行年四十二才」とあります。





お墓の向かって左側にある拓南の碑（たくなんのひ）には、正面に「東南アジアの興隆を冀い拓南に生きた人々ここに眠る」、台石には「一九二〇年 智か資源開発を持ってこの地に業を起し爾来六〇年 一九八〇年九月十日 石原産業株式会社 社長石原健三」とあります。

また 1980 年に建てられた銘板には、「一九二〇年この地に業を起して幾星霜 先人達の雄図をしのび 忝れし諸霊をここに祀る 一九八八年九月十日 石原産業株式会社 代表取締役会長石原健三」とあります。

石原産業は 1919（大正 8）年、バト・パハのスリメダン（マレーシア）に石原鷹一郎、東条次、田所久吾が鉱脈を発見し興した鉄鉱石の採掘会社です。事業は成功し拡張を重ね、のちの石原産業海運となりましたが、戦後の財閥解体により石原産業となりました。



西村吉夫は 1892 年（明治 25 年）生まれ、京都府出身で、石原産業の前身スリメダン鉱山に入社しました。1933（昭和 8）年より、石原産業シンガポールの支配人となり、同年、日本人会会長となりました。

また詩人・金子光晴や、虎狩の殿様・徳川義親の書きものにも、その名前が見え、シンガポール、マレーシアを訪れた邦人たちの世話もよくされました。

当時は第二次世界大戦に向かって動いていた時代で、シンガポールもその流れの中にありました。

1934（昭和9）年12月5日、軍港を撮影したため英国植民地政庁からスパイ容疑により出頭を命じられ、取り調べ先の中央警察でマラリア治療薬の猛毒のキニーネを大量に飲み死亡しました。

12月6日、日本人会は盛大な会葬をもって日本人社会の信頼厚かった故人の霊を弔いました。

この日本人墓地公園門前にずらりと車が並ぶ会葬の写真は、現在も日本人墓地公園の御堂内に掲げられています。



日本人墓地公園内で行われた西村吉夫の葬儀に多くの方が参列している様子を収めた写真も残っています。

石原産業株式会社が建てたお墓は、御堂の向かいにもう一つあります。こちらは、故陸軍軍属 田中佐太郎のお墓です。



出典：日本人墓地公園サインボード

参考文献：「シンガポール日本人墓地公園 - 写真と記録 改訂版 -」

シンガポール日本人会 史蹟史料部 1993年改訂版発行